

学園の憂鬱

東京郊外の非宗教系私立大学で、「宗教入門」のような授業を受け持っている。九月中旬、拙宅のパソコンに学生からこんな便りが届いた。

《先生の授業を受けている〇〇学部一年のA子です。気になることがあってメールさせていただきました。学内の友人から「×××」という団体を紹介されました。すぐに断るのも悪いと思います、とりあえず資料はもらいました。ほかの友人も誘っているようですが、変な団体ではありませんか。ご存知のことがあれば、教えてください》

その仏教系組織は、まさに「変な団体」として知られている。事情に詳しい僧侶に電話をすると、最近は大学や

南	無
善	財

菅原伸郎

高校で勢力を広げているとのこと。女子学生にはすぐ「気をつけてください。参考資料を取りに来ませんか」という返信メールを送った。

二学期最初の授業ではさつそく、カルト予防ビデオ「幻想のかなたに」を上映した。日本脱カルト協会（ファクス046・263・0375）の制作した十分ほどの作品だ。「相手は正体を隠して近づいてきます」などと手口を解説しており、学生たちは息をのむように画面を見つめていた。

講義が終わって教室を出ようとする
と、一人の男子学生が話しかけてきた。学内食堂で食事をしながら聞いてみると、この三年生は「△△△△」というキリスト教を名乗る団体の元信者だった。一年以上も街頭活動などをしてきたが、韓国行きの直前に逃げ出したそうだ。「いまも入会する学生は続いているんです。やめるように呼びかけてるんですが」と話していた。

こうした相談はしばしばある。半年前には、学内で広がっているネズミ講について、メールで相談を受けた。国民生活センターの電話番号を教えたのだが、その後、連絡は途絶えている。うまく解決できたのだろうか。

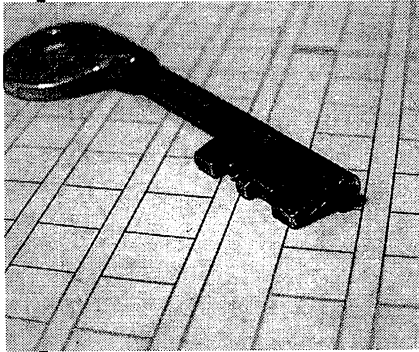
オウム真理教事件からまもなく十年になるが、国や地方自治体の対策はまったく進んでいない。マスコミにも

登場しなくなっているが、いまでも「彼ら」は新しい手口を次々に編み出しているのだ。ご報告したように、学園のキャンパスは「草刈場」となっている。先の男子学生は「親元を離れて一人暮らしになり、寂しかった。かわいい女の子に誘われ、つい、ついでにっただんです」と振り返っていた。

あるキリスト教系の大学では、入学式で「キリスト教を名乗る団体が署名活動などをしていきますが、私たちの信仰とはまったく違う内容です」と注意を呼びかけるビラを配っている。しかし、仏教系大学や非宗教系大学ではあまり聞いたことがない。非常勤講師である私は、相談を受けるたびに事務室に連絡しているのだが、教授会や学生部の反応はまだ鈍い。せめて学内掲示板に注意を呼びかける文書でも張り出

してほしいのだが……。

宗教については無関心で及び腰でもある教育関係者に、積極的な対応を求めることは難しい現状だ。被害者からの相談を受けている弁護士たちの全国組織もあるが、予防策まで期待するとは無理だろう。資金の豊富な「彼ら」に対して、継続的・組織的に立ち向かう方法はないものか。



そんなことを考えていたとき、知り合いの僧侶から赤い表紙の小冊子が届いた。真宗大谷派青少年センター準備室が四月に発行した資料集「カルトについて」で、被害の具体例や勧誘の手口が列挙されている。系列校などに配っているそうで、さらに門信徒向けのチラシも作る計画という。

伝統も良識もあると自負する教団が、こんな形でもっと取り組んでくれないだろうか。たとえば「最近、私たちの宗門と類似した名称の団体が活動しています。私たちがまったく関係ありません。ご注意ください」といったビラをつくり、各大学の校門前で配るのだ。いざ「彼ら」から誘われたとき、そのビラを思い出して踏み止まる学生もきつといるはずである。

(すがわら・のおお／ジャーナリスト)